

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370800520		
法人名	医療法人 弘友会		
事業所名	みんなの家 そよかぜ		
所在地	総社市小寺990		
自己評価作成日	平成29年1月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成29年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームより四季折々の景色が眺められる環境の中で、春は桜並木 桃の花を見ながら ベランダで会食 夏は、目の前で花火大会見物 秋は稲穂 冬は、水辺に渡り鳥の鴨が来て楽しめる。一人ひとりがその人らしく毎日笑顔で生活できるように支援している。毎日の食事は地元の旬の野菜をたっぷり使い、季節感を取り入れた献立を考えて提供している。できることを手伝っていただきながら調理している。季節毎 初詣 お花見 紫陽花 菖蒲 紅葉見物等 外出または外食に出かけ、入居者の方の満足度を上げている。本人、家族の方、職員間の情報を共有し、お互いが認めあい感謝の気持ちや言葉を伝えることを目標にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の医療法人が運営する泉(いずみ)グループの施設系サービスに属するグループホームで医療連携が整っており、適切な医療が受けられる様努めています。自然で家庭的な雰囲気を中心に掛け四季折々の行事又、日々の食事にも季節を取り入れた献立で皆で楽しく暮らすことを大切にされた支援に努めています。共同生活の中でその人らしさを失わない様、全職員で情報を共有し「いずみ」の精神の下で日々支援に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	泉のころをもとにやすらぎと潤い、奉仕、感謝、お互いあるがまを受け入れる気持ち、使命感と責任を持って、入居者一人ひとりが自分らしく笑顔で生活できるよう支援している。	理念にもあるように自分らしく生活できる様に支援しています。危険だからと言って動きを制限することなく、入居者の家族と一緒に考え本人の意思に沿った支援を行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の散歩コースで挨拶や会話、とんど祭り、花火大会、運動会、文化祭等に参加している。	地域とのつながりは深く、祭りに地域の方を招いて共に楽しんだり認知症カフェを通しての繋がりも増えています。イベントに参加してくれる地域の方は気さくに入居者に声をかけてくれて入居者の楽しみになっています。	長年の地域との交流で人間関係も深まっている様に感じます。これからも地域の方と共に入居者の支援に取り組めるような関係とシステム作りに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校、幼稚園、保育園等が訪れ交流会があり児童や園児たちから元気をもったり又、昔遊び等も伝えることができている。作品展や部署紹介オレンジカフェで地域の方に向けて理解や支援に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施、各ホームの状況、報告、行事報告予定、意見交換、情報交換を実施、サービスの質の向上や地域に根ざしたホームづくり、アドバイス等もいただいている。	家族の代表が意見を出して話し合っています。認知症の地域の相談拠点として機能を発揮する為に、オレンジカフェ(認知症カフェ)への協力依頼を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の包括支援センターが開催する認知症講座へ参加したり、利用者の状況報告や相談も行っている。又、運営推進会議等に参加していただき、介護保険や認知症の情報もいただいている。	2カ月に1回のオレンジカフェ(認知症カフェ)に精神科医と行政担当者が毎回参加してくれ、地域の方の認知症についての悩みの相談会場となり、協力関係に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回夜間スタッフミーティング時に身体拘束に対する現状と合わせて話し合いを行い、統一したケアの実践が行えるよう取り組んでいる。昼間には玄関の施錠は行わず夜間は防犯のため施錠している。	入居者の生活の範囲を狭めることなく入居者の家族と一緒に考え、どのような支援が本人に必要なかを常に考えて関わっています。また、職員同士、小さいことでも情報共有を行いリスクの軽減に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じくスタッフミーティング時に話し合いの機会を持っている。研修資料等の読み合わせをしている。言葉の虐待等になっていないか？お互いの意見を話し合っ注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県、市の開催する研修に参加したり、当グループの全体カンファレンスでの勉強会等に参加、各資料に基づきスタッフミーティング時話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や改定時等に理解していただけるように説明を行い、同意していただいている。苦情相談窓口も設けており、専門スタッフからわかりやすいように説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはゆっくりくつろいでいただけるようなスペースづくりを心がけ、気軽に意見や要望を話せる雰囲気づくりに努めている。家族会やカンファレンス等でも聞く機会を設け、運営に反映させている。	家族が話しやすい様に職員から声をかけ、入居者の近況を伝え思いを汲むように心掛けています。意見などは速やかに法人本部に伝えられるシステムが出来ています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回のフィードバックシート記入。 月1回の部門長会議にも参加、状況報告、要望等を提案、職員の意見を反映させている。	フィードバックシート(自己評価)の項目に日々の職務の成果から職場に対する事などが記載されており、法人本部へ伝えられるシステムが出来ています。ユニットごとの人間関係も良く、協力体制も出来ています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回のフィードバックシートに上司のコメント等記入、個々のやりがいなど記入、努力や実績、勤務状況を把握しており、資格手当の支給10年・15年・20年勤務表彰がある。誕生日休暇・各種サークル活動も発足して体力づくりや趣味活動でリフレッシュしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では月1回勉強会実施、外での研修にも順番に参加し、技術や知識を身につけていくことを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市GH意見交換会に参加、それぞれの経験年数や男女別のスタッフ等の意見交換行いお互いサービス向上に努めている。ホーム長間で行事報告予定、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の申し込みから入居まで本人の不安なこと等傾聴し、話しやすい環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等ゆっくり話を聞き、今何を不安に思われているか？等をしっかり傾聴したり受容することで、家族との信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に情報等を参考にしながら、本人と家族等が「その時」何を必要とされているのかを見極め、他のサービス利用のアドバイスをすることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節毎の行事等の話を思い出したり、普段の家事や子育ての苦労話等を関わりの中で行い、親しみのある関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時、近況報告や若かりし頃のご利用者の話を聞かせていただき、共にご利用者を支えていく者同士として一緒に過ごせる時間、共有する時間を持っている。外出時には、ご家族も一緒に参加もしていただく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の面会もあり、ゆっくり一緒にお茶を飲みながら談笑されたり、馴染みの関係が途切れないよう配慮している。	法人内の他施設の知り合いが訪ねてきて、懐かしい友人とのかかわりが続いています。入居者の家族同士が知り合いで情報をもったり、入居者との日々の関わりで知った情報から繋がりを深めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	名前等の認識はなくても隣の席の人の顔が見えないと心配される場面があったり、話題はかみ合わなくても隣に座られていると落ち着かれる場面もあり見守っている。できない部分での生活支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時にもお見舞いに行っている。利用が終了してもご家族がホームを訪ねて来られ思い出話をし、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフミーティングやカンファレンス等で本人の体調面、生活面、希望の把握に努め全スタッフが情報を共有し検討、又、家族からも要望を聞き連絡を図っている。	情報収集に努め、本人の趣向に添った生活支援に努めています(歌・生け花・お洒落など)。また、意図しないことに入居者が反応したときはその理由を考え本人、家族、知り合いに尋ねています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、又、利用していたサービス担当者から生活歴等の情報を得て、その人らしく生活できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその日の精神面や体調面等スタッフ間で共有し、不穏時等はマンツーマン対応や気分転換等の対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時等、日頃の様子を伝え家族の思い等を話し合い、カンファレンスやミーティングで情報や意見交換を行いながら作成している。	家族は比較的よく面会に来てくれその都度、入居者の日常を伝え、何が本人にとって必要なのか話合っています。また、医師・看護師と医療連携も取れており、ケアカンファレンス時、職員全員で計画作成担当者を中心に作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や会話を個別記録に記入しスタッフ間で共有し、又、ドクター、ナースからの連携も図りつつ見直しを行い、介護計画の作成をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠くで面会の少ない方には、電話をかけたがり、かけてもらったりいつでも触れ合えるようにしている。気分転換に散歩したりドライブに出掛けたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児との交流会や公民館での文化祭等に参加、近隣の方や小学生との交流もあり楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である泉クリニックへ受診している。受診にはスタッフが付き添ったり、場合によれば家族の方をお願いすることもある。医師よりご家族に説明も随時行っている。	精神科医の往診が毎週あり、緊急時もその都度対応出来る体制が整っています。入居者のカルテがあり、情報の共有が出来ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携を図り、週2回訪問 急変時には連携体制が整っている。医師の訪問診療は、集団・個別もあり医療連携が図れている。毎日主治医とも情報交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行い、施設での様子を伝えている。お見舞いに行ったりご家族に電話にて状況をたずね、医師 看護師と相談を行い退院後の生活に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、医師 看護師、家族と話し合いを何度も持ち、ホームでできることを十分説明しながら方針を共有し、看取り介護も行っている。	入居者の状態変化に合わせて医師から家族と職員にその都度、説明があり方向性の統一が図られています。また、ターミナル時急変時には24時間体制で医師が駆けつけます。職員は看取り経験があり、本人と家族にとって一番良い形でより添って支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体カンファレンスでの緊急蘇生の研修やAEDの研修等に参加している。新人スタッフにはこれからも研修を行い、実践力をつけるよう努めていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜想定避難訓練と地震想定避難訓練を行っている。地域との協力体制は、法人として災害時に協力してもらおう体制が整っている。	法人の合同練習だけでは無く、当該事業所のみでの災害訓練も行っています。職員は2つのユニットの入居者をよく理解しており、お互いが協力体制にあります。消防署も近く、災害時に協力してもらえ関係作りが出来ています。	災害対策はこれでいいという事はないので、入居者と職員の入れ替わり環境も変わってくるので、その都度変化に合わせた対応を続けていくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりゆっくりと傾聴し笑顔で受容する対応を心がけている。トイレへの声かけや入浴の声かけも個々にあった声かけをしている。	年長者として敬意を払うことを大切にし、馴れ合いにならない言葉かけに気を付け、個々に合った対応を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で食事の好みや献立を一緒に考えたり決めてもらったりしている。買い物に行きたい時は一緒に行っている。手伝い等も進んでして下さったりできない部分は手伝っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、その時々の方本人にとっての希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をスタッフと一緒にしたり、好みの洋服を選んで組み合わせてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人や家族から食事の好みを聞いたり、野菜の皮むきや下ごしらえ・処理等を手伝ってもらっている。キザミにしたり、食器も深めにしたり、軽量にしたり、その人に合った工夫をしている。	入居者の力を見出す方法の一つと捉え、一人ひとりの癖を把握し、すぐに食事介助をするのではなく、自分で出来ることは見守っています。また、事業所で献立を考え、季節のものを取り入れるよう工夫しながら楽しい食事を心掛けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的なメニューを提供し、野菜をたっぷり使い、昼・夕と肉と魚を使い片寄らないように努めている。週一回管理栄養士からのアドバイスも受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを実施している。できる方は声掛け、できない方はスタッフが介助する。夜間は義歯洗浄、歯ブラシ、コップ等消毒もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し、日中にはトイレでの排泄を心がけて、その人に合わせた声かけをさりげなく行っている。肌の敏感な女性には、布パンツを使用して蒸れを防いで気持ち良く過ごせるように努めています。	職員間で、一人ひとりに合ったパット、パンツについて話し合っています。入居者の環境、運動機能、排泄機能、認知機能、複合的に入り混じった因子の整理、分類を行い自立支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材にはしっかりと野菜を取り入れ、水分量や運動、腹部マッサージ等で対応している。訪問看護師との連携にてアドバイスも受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回を基本としているが、体調や状況により気持ち良く入浴、シャワー浴ができるようにしている。	入浴は清潔保持だけでなく、気分転換やリラクセス出来る場と捉えています。入浴拒否の方は、原因を考え、入浴できるよう個々に合った支援をしています。また、毎日の入浴順を変えるなど工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調等にに合わせて休息したり睡眠がとれるようにしている。夜間不眠時には、個別の対応にて関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師からの説明書により使用目的や副作用、用量や用法について理解できるようにしている。服薬の確認、症状の変化については全スタッフで確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きを役割にしている方、トレー拭き・タオルたたみをしてくださる方等それぞれの役割を大切にしている。外出、ドライブ等も楽しみにされている。歌唱の好きな方も多く、音楽療法も楽しみにされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩をしたり、ベランダで日光浴をしたりして外気に触れる機会を作っている。地域のとんど祭りや公民館祭り等に参加し、ふれあいも大切にしている。	社会参加の一つと捉え、体力的に無理がない限り選挙の投票に行き、いつもと違う力や表情を見る事があります。また、外出時はお互いのユニットで協力して行っています。家族同士で外出し入居者も家族も喜んでいきます。	外出支援は人手が取られ割愛されがちですが、日々の業務の見直しや外部支援などを取り入れて、日常生活の中で散歩が普通に行えるよう支援されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は少なく、スタッフが一緒に行き支援している。支払いができる方には見守りながら尊厳を大切にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分でかけられる方には、希望される時にかけていただいている。かかってきた時には、お互いの連絡ができるように確認している。手紙等は一緒に読んだり本人にわかりやすく伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節折々の花を飾ったり、タペストリー、置物等で季節感を出している。	普段通りの生活を心がけ、一緒にぬり絵を楽しんだり、音楽を聴いたりし、居心地よくゆったりと過ごせる工夫をしています。また、大きな窓から見える、渡り鳥など身近に季節が感じられ生活の潤いに繋がっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはそれぞれのイスやソファがあり、利用者同士の交流の場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や家族の写真、手紙等の持込により今までの生活の継続を大切にしている。	特に決まりはなく入居者が落ち着ける場所を作ることが一番大事なことで捉え、極端に危険がない限り本人と家族の気持ちに沿った部屋作りを行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やテーブルの高さ等本人の体形に合わせた物を置き、トイレや浴室の場所が分かりやすいように文字やのれん等で表示している。		